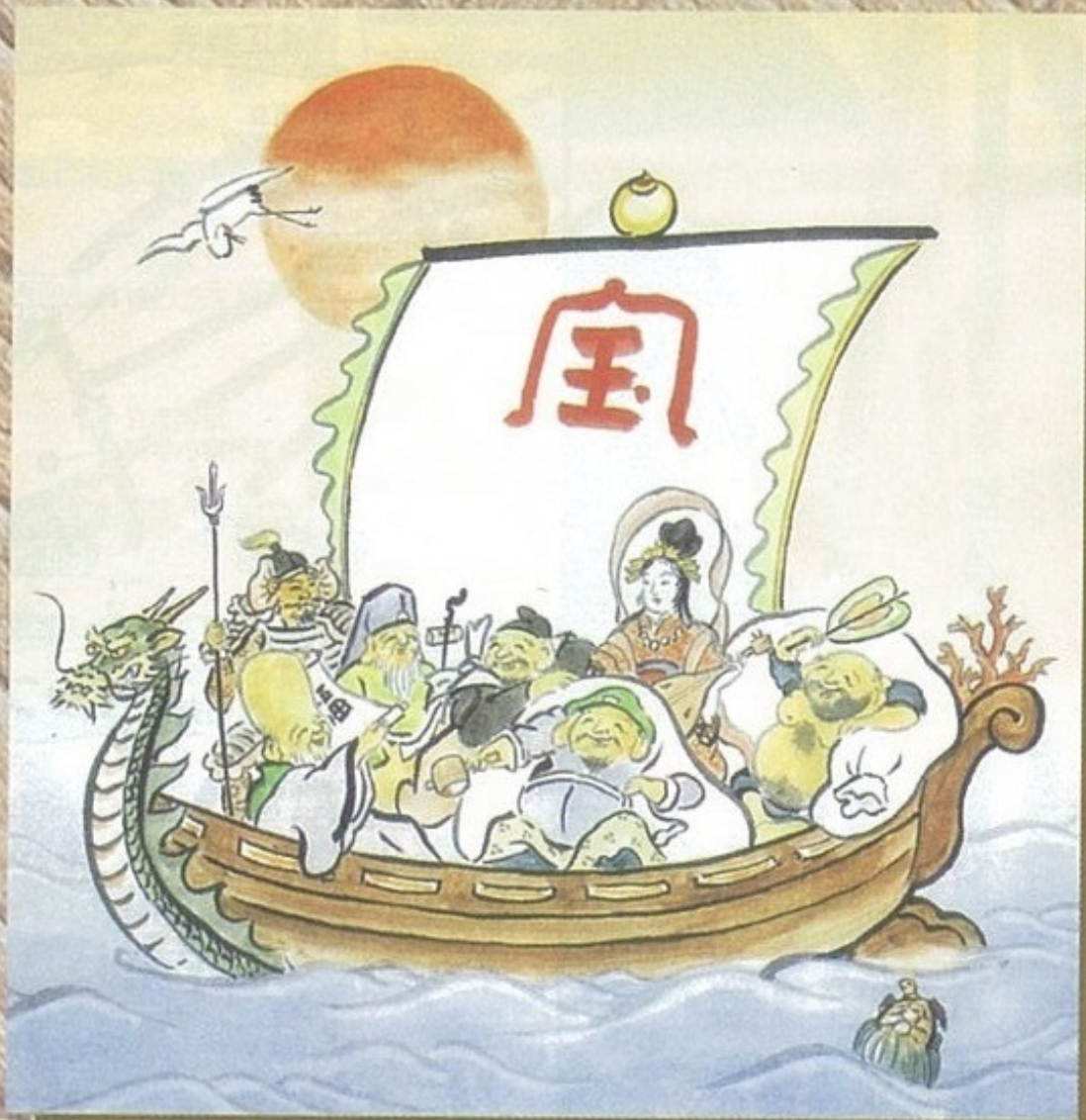


歴史と文化のまち

足利七福神



歴史と文化のまち

足利七福神



七福神めぐりの歴史は古く、室町時代に京都で始められたといわれ、これが記録に残る最も古いものとされています。

七福神は、福德の神として印度、中国、日本の三国をあわせたもので、七という聖数にあわせた福祥のしるしの神さまです。

大黒天、毘沙門天、弁財天が印度の神さま、福禄寿尊、布袋尊、寿老人が中国の神さまで、恵比寿神が唯一日本の神さまです。

ほとんどが仏さまですが、七福神と言われ神さまとして扱われております。

足利の七福神めぐりは、昭和17年、まちの繁栄と家運の隆昌、健康増進を願って生まれました。第二次大戦中は中断されましたが、昭和50年頃からの七福神ブームに刺激され、昭和62年卯年の正月から復活したものです。やもすると運動不足になりがちな正月や冬季のハイキングを兼ねた巡拝として数多くの名所、旧跡と豊かな自然にふれることができる、健康的な「足利七福神めぐり」をご案内いたします。

● 東武伊勢崎線

・浅草駅～足利市駅
特急 70分
・伊勢崎駅～足利市駅
40分

● JR両毛線

・高崎駅から足利駅
60分
・小山駅から足利駅
40分

● 自動車道

・東北自動車道
佐野御間IC～足利市15km
・北関東自動車道
太田御生IC～足利市7km
足利IC

新春(1・2月)のご参拝がお決まりの方は、12月上旬までに足利市観光協会へご連絡下さい。(各社寺へご連絡いたします)

他の時期にご参拝の方は、お手数ですがあらかじめ各社寺へご連絡くださいますようお願いいたします。(都合により対応出来ない場合もあります)

観光のお問い合わせは

(一社)足利市観光協会(太平記館) TEL 0284-43-3000 (FAX 43-3333)

〒326-0053 栃木県足利市伊勢町3丁目6-4



① 大黒天 (鑊阿寺)

家富町2220 (TEL.41-2627)

〈五穀豊穰・諸願成就〉

国の史跡、尊氏父祖の宅跡、建久7年(1196年)源姓足利氏2代目義兼が館の中に持仏堂を建て、守り本尊の大日如来を祀ったのが鑊阿寺の始まりである。周囲に土塁と堀をめぐらした寺域は約4万㎡である。平成25年8月に本堂が国宝に指定。



② 寿老人 (心通院)

本城1丁目1742 (TEL.41-3202)

〈長寿・富貴・招福〉

己を無にして他のためにつくす「利他行」を教えとする。永禄9年(1566年)足利長尾の五代政長が両親憲長夫妻菩提のために、西宮町長林寺の七世学英宗益大和尚を開山として創建された。安産子育て、延命地藏尊等が祀られている。



③ 明石弁天 (本城巖島神社)

本城2丁目1805 (TEL.42-0525)

〈福德財宝・家内和合〉

寛政5年(1793年)の建立で、明治維新前は、通称明石弁天祀といわれていた。昔この里に清泉が湧く池があったので、水にゆかりの深い神として奉祀したと伝えられている。「美人弁天」は、巖島神社の御祭神、市杵島姫命の分身です。



④ 6丁目長尾弁天 (通6丁目巖島神社)

通6丁目3177 (TEL.21-0215)

〈福德財宝・家内和合〉 2341

通6丁目の弁天は、もと長尾城主(三代目景長)が西宮町長林寺に祀ったもので、その後、明治元年(1868年)神仏分離令により長林寺から通6丁目に遷座、巖島神社となった。



恵比寿神

ただ一人の日本の神で、商売繁盛、財福清康の神、漁の保護神として古くからの信仰を集めてきた。神話の短子の神又は事代主神ともい、えびすという名から推測して、海から漂着した神であるという説もある。



大黒天

インドの神で、生産、豊作の神、財福の神として祀られている。古代インドでは戦争の神であったが仏教にとり入れられて、寺院の守護、護法神となった。頭に頭巾をかぶり、右手に打出の小槌を持って左手で大袋を背負い、米俵をふまえた姿をしている。

インドの北方にあり、女神を授けられたとされ、



⑤福祿寿尊
ちようりんじ
(長林寺)

西宮町2884 (TEL.21-5636)
〈幸福・福祿・長寿〉

文安5年(1448年)足利長尾家の菩提所として初代景人が創建した。元禄時代、修行道場としての別格地となり、明治維新までの人材養成の道場としての伝統を継承し、参拝会、仏教講座など開設している。



⑨大黒天
とくそうじ
(徳蔵寺)

猿田町9-3 (TEL.41-8621)
〈五穀豊穰・諸願成就〉

開創年代は平安末頃の開創と伝えられています。内部正面には一向三尊の阿弥陀如来立像を安置し、この尊像は鎌倉時代の作で、木彫金箔、模様入りの稀に見る秀作である。その他、日本三大五百羅漢や千庚申塔、かな地藏尊、愛染明王尊等数々の重要文化財がある。三面出世大黒天



⑥恵比寿神
にしのみや
(西宮神社)

西宮町2931 (TEL.21-6790)
〈除災招福・商売繁盛〉

昔は、足利五箇村栗崎鎮守恵比寿宮といわれた。慶長8年(1603年)代官風祭太郎左衛門は、領地繁栄のために攝津国西宮神社に勧請し創建された。特に秋祭りは、開運や商売繁盛を願う人で賑わう。



⑩弁財天
しやうぜんじ
(正善寺)

常見町1-12-15 (TEL.41-4555)
〈芸芸上達・開運招福〉

正善寺古墳は市内最大級の古墳。日本書紀に鹿我別王(かがわけのみみ)記録があり、足利の地名の発祥の人ともされる。当古墳はその威徳を継いだ方のお墓である。弁財天は日光より勧請され、学業成就に功德がある。本尊は県の重文の阿弥陀如来像で国内では稀有なる像である。



⑦毘沙門天
しやうねんじ
(常念寺)

通7丁目3094 (TEL.21-2016)
〈開運厄除・学業成就〉

時宗の開祖一遍上人は、熊野本宮に参籠して神勅を感得し、立教開宗したと伝えられている。本寺は平安末期(1143年)創建といわれる。一遍上人の法孫が遊行中荒廃した寺の再建に尽されたといわれ、仏舎利奉安の寺である。



⑪毘沙門天
さいしやうじ
(最勝寺)

大岩町264 (TEL.21-8885)
〈開運厄除・学業成就〉

奈良時代行基上人の開創。大岩毘沙門天は、日本三体の霊仏(京都鞍馬山、奈良信貴山、野州大岩山)の1つとして知られている。行事としては、大晦日の夜半からの「あきたい祭」、元日早朝の「滝流しの式」がある。



⑧布袋尊
ふくこんじ
(福厳寺)

緑町1丁目3270 (TEL.21-6990)
〈福德円満・家内安全〉

寿永元年(1182年)藤姓足利四代目忠綱が母の菩提と父(俊綱)の供養のために創建したといわれている。足利義兼公と時子夫人の守り本尊(秘仏)子安観音と、セキ地藏尊が祀られている。本尊の釈迦如来像は足利市重要文化財。



⑫名草弁天
なぐさいつくしま
(名草厳島神社)

名草上町4990 (TEL.41-9977名草公民館)
〈福德財宝・家内和合〉

名草弁天は、弘仁年間(810~824年)空海上人(後の弘法大師)が、水源農耕の守護として弁財天を祀ったのが始まりと伝えられている。国指定の天然記念物名草巨石群に鎮座している。



沙門天

四天王の一つとして、多聞天のことで知られる守護神で財宝福を授ける神である。戦勝の神でもある。



弁才天

七福神の中で唯一の女神である。インドの神で弁才天ともいい、略して弁天という。音楽の神で、弁舌才知を与えるので、妙音天、美音天といい、水の神、芸術の神であり、また財宝利得をもたらすので弁財天として信仰されてきた。



福祿寿尊

幸福と福祿と長寿を兼ね備えるという中国の福神である。背だけが低く、頭がきわめて長く、経巻を結んだ杖を持っている姿で、年令数千才ともいわれる。



布袋尊

中国の神で、大らかな笑顔で、何ものにもこだわらない、広い無垢の心を教えてくれる。布袋尊(布袋和尚)は、他の六神とはことなり、ただひとり実在した禅僧である。体が肥大で腹部を露出し、大きな袋をもって所請をめぐり喜捨を求めて歩いた。また、布袋は、彌勒菩薩の化身ともされている。



寿老人

中国の長寿の神で、寿老神と書く場合もある。白髪で白い髪をたくわえ、野服を身にまとい、鹿をとちもなう老人である。杖をたすさえ、杖の先には巻物をつけている姿は仙人ふうで、道教の始祖老子の化身の神ともいわれている。巻物は人命の長寿をしるし、鹿は長寿をつかさどる使者とされている。



順拝コースのご案内

七福めぐりは、「福徳」と「心の安らぎ」及び「健康」を得るためのものですから、徒歩で廻るのが基本です。しかし、市街地から離れた場所の七福神は、徒歩での巡拝は難しいので、この場合はマイカー又は「太平記館」の



徒歩コース 約8km・3時間15分

※コース全体を逆に廻ることも可能です。



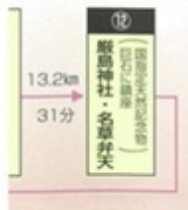
車両コース 約50km・2時間50分





レンタサイクルでの巡拝をお勧めします。

時間は各社寺10分
弁天は20分



バスでゆっくり1日コース

- ⑪ 徳蔵寺
- ④ 名草弁天
- ③ 心通院
- ⑩ 最勝寺
- ⑧ 福厳寺
- ⑤ 西宮神社
- ⑥ 長林寺

又は

- ⑩ 最勝寺
- ⑧ 福厳寺
- ⑤ 西宮神社
- ⑥ 長林寺
- ③ 心通院
- ④ 名草弁天
- ⑪ 徳蔵寺

途中で学校周辺の散歩を入れてみては如何でしょう